

# へ塚三里に10.11で全力を以てし、バネに成功の圧倒的の大会定期7才

## 日刊 動労千葉

82. 10. 5.

No. 1162

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市曙町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六・八番) 電話(22)七三〇七

\*\*\*\*\*

動労千葉第七回定期大会は、二日間にわたってのべ四〇〇名の代議員・傍聴者・家族組合・来賓の参加のもと、千三百の英知を結集した熱烈な討論をもって、いよいよ三里塚―国鉄の本格決戦に立ちむかう方針と体制をしっかりと立ち立てた。大会で満場一致採択された三つの決議(①10・11三里塚総決起、②検修合理化粉碎、③革マルの謀略デマ弾劾)を、以下順次「日刊」を通じて紹介いたします。

\*\*\*\*\*

### 10・11三里塚現地闘争に総決起する決議

三里塚闘争は、まさに決戦の秋をむかえた。10・11全国現地総決起集会は、政府・空港公団・権力・革マル反動分子等、密集せる反動による闘争破壊攻撃との歴史的決着をかけた一大決戦局面である。さらに、この集会の成否に三里塚闘争の勝利がかかっている。すでに三里塚芝山連合空港反対同盟は、全国の闘う労働者・人民に空前の大結集を呼びかける招請状を發出している。

三里塚反対同盟の十七年間の闘いは、確実に「反対同盟解体なくして二期着工絶望」というところまで敵を追いこんでいる。そして、追いつめられた敵は、それゆえに、未曾有の国家暴力を発動し、巨額の金を投入し買収工作をしかけてきている。この攻撃こそ、成田用水推進策動である。

成田用水攻撃は、反対同盟農民を買収し、もって「空港絶対反対」の基本路線を同盟内部からつき崩し、反対同盟を破壊せんとする、最も悪辣な二期着工攻撃そのものである。この敵の買収策動たる成田用水を推進することは、反対同盟を内部から条件派へと変質させ破壊する裏切り行為であり、断じて許すことはできない。わが動労千葉は、労農連帯を基礎に「81・3三里塚ジェットストライキを闘いぬいたのであり、それは決して「支援・連帯」の域にとどまるものではなく、労働者・農民のゆるぎない「血盟」としてあったのであり、だからこそ、この労農連帯を破壊せんとする一切の反動攻撃を粉碎すべく、10・11総力をもって決起し、その回答としなくてはならない。

いわゆる「石橋・内田問題」を克服した反対同盟は、いま、全力をもって敵の成田用水攻撃と闘いぬき、敵を決定的に追いつめている。まさにそのときに、革マルは、「北原事務局長が五月十八日成田警察警備課長と密会」なる百パーセントのデマをデッチあげ、敵権力と一体となって反対同盟破壊にのり出してきた。そして、動労「本部」革マル反動分子は、デッチあげ「千葉地本情報」や関東地青デマ情報「ひばな」で、「北原が警察権力と密通するスパイであった」「組合員を『三里塚』にひきまわす千葉動労を解体せよ」とさげび、労農連帯への階級的憎悪をもって、新たな動労千葉組織破壊攻撃にのり出してきている。わが動労千葉は、このような革マル反動分子の三里塚闘争破壊、労農連帯破壊にこみ上げる怒りをおさえることができない。

情勢はあきらかに、三里塚・国鉄をめぐって重大な決戦に突入している。敵権力は、革マル反動分子を先兵に全力を投入して、三里塚闘争を庄殺し、国鉄労働運動をも解体せんとしているのであり、これは、軍事大国化―改憲・侵略戦争への策動そのものである。政府支配階級は、一機百億円もする戦闘機を大量に買い込み、戦争へむかって大軍事演習を強行しているではないか。そして、「戦争はしない」「軍隊はもたない」と明記してある憲法第九条をも「侵略戦争のために、軍隊を保持する」と改悪せんとしているのだ。

また、教科書問題に示されているように、三千万人ものアジア人民を虐殺した侵略の歴史を抹殺し、正当化せんとデッチ上げ、再び侵略戦争を強行せんとしている。

同時に、臨調・行革攻撃は、「国家財政危機」をおりたて、人事院勧告凍結、合理化、福祉切り捨て等、労働者人民にすさまじい生活破壊を強制してきている。これらは、戦闘的国鉄労働運動の破壊を通して、労働者・人民を侵略戦争へ総動員せんがための大反動攻撃である。そして、このような敵の大反動攻撃の突破口としてあるのが、反戦の砦―三里塚闘争の解体である。

いま日本労働運動に真に問われていることは、こうした大反動攻撃に怒りをもって対決し、八〇年代階級闘争の攻防戦の焦点たる三里塚闘争の勝利にむけ総決起することである。三里塚闘争の勝利こそが、戦争と反動を阻止する道である。国鉄労働運動解体攻撃を粉碎する道である。

三里塚闘争は絶対勝利できる。反対同盟は、敵の暴力的攻撃に断固反撃し、十七年間も闘いぬき勝利してきたではないか。そして今、二期強行攻撃をうち破っているではないか。

わが動労千葉は、81・3三里塚ジェットストライキの誇りにかけて断固として決起する。「この秋の闘いを十七年間の闘いの歴史の総決算」として、こんしんの力をふりしぼって決起している反対同盟に真向から応え、10・11闘争に組織の総力をもって決起することをここに決議する。

一九八二年十月一日

国鉄千葉動力車労働組合 第七回定期大会



総力動員にむけ全支部でのオルグにも拍車がかかる。さあ、いま一步たれ！！